

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25360035

研究課題名(和文) バイパス型私企業活動の活性化による、マダガスカル山間部の住民行動と地域構造の変容

研究課題名(英文) Change in People's Behaviour and Regional Structure Caused by Private Companies' By-passing Activities: A Case of Madagascar Mountainous Region

研究代表者

飯田 卓 (IIDA, Taku)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授

研究者番号：30332191

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：2009年の政変ののち、マダガスカル政府は統治能力を低下させたが、外交関係では前政権の政策を踏襲し、海外の企業やNGOの活動を大幅に認めてきた。政府の統制を受けないこのような活動を、本研究の代表者は「バイパス型私企業活動」と呼び、それが村落生活に与える影響を調査した。調査期間中の2013年、大統領選挙が実施されて暫定統治は終了したものの、政府の統治能力が十全に回復したとはいえない。こうしたなかで調査村落では、人道支援NGOから支援を受けて、伝統的景観の再現という大プロジェクトが実施された。観光客を呼びこむ効果は期待できるが、伝統的住居に用いる木材資源が枯渇するおそれなしとしない。

研究成果の概要(英文)：After the governmental take-over of Madagascar in 2009, the state of the low governance has allowed the overseas companies' and NGO's free activities according to the precedent government's diplomatic policy. Such activities which the state government does not control directly, or what the principal researcher of the project call "by-passing activities," were examined as well as their impact to the rural life.

In 2013 during the project period, the presidential election was held and the transitional government ended its role. However, the state government has yet to recover its governance. The research revealed a big project of restoration of traditional landscape led by an NGO for humanitarian aid. It is expected to cause a positive impact for tourism development, while timber resources to build traditional houses are possible to deteriorate.

研究分野：人類学

キーワード：天然資源 暫定政権 小規模生産者 アフリカ マダガスカル

1. 研究開始当初の背景

2008年に政変が起こってから研究開始の2013年初頭に至るまでの期間、国外からのODA援助は滞っていた。いっぽうで、日本企業がニッケルやコバルト鉱山の操業開始を許可されたことに象徴されるように、海外企業の活動は依然継続していた。国家財政が破綻して内戦状態になってもおかしくない状況にもかかわらず、合法非合法なかたちで私企業やNGOが活動を続ける状況は、国家が意図しないかたちで国内諸社会に影響を及ぼす可能性があり、村落社会も大きな影響を受ける可能性があった。

いっぽうでアフリカ研究の動向を振り返れば、現代アフリカの政治経済状況を分析するうえで、天然資源の役割が主要な考察対象となっている。紛争下において天然資源が紛争継続のための資金源になるという指摘や、経済的成長がみられる多くの国で天然資源採取の部門での成長が顕著だという指摘は、その一例である。しかしこれまでの研究では、マクロな経済指標に関する分析が中心であり、小規模生産者のふるまいはじゅうぶんに記述されてこなかった。

2. 研究の目的

国家を通りこして海外からの影響をもたらす私企業やNGOの活動を、研究代表者はバイパス型私企業活動と位置づけた。本研究の目的は、バイパス型私企業活動が村落生活に与える影響を明らかにし、評価することである。

また、たんに経済指標をもって影響を評価するのではなく、小規模生産者のふるまいをとおしてそうした影響を評価することで、グローバルズムをもたらす社会変化の特徴を抽出することを旨とした。

3. 研究の方法

フィールド調査による実証的な記述・分析をおこなった。調査地として選定したのは、国内外の経済状況に敏感だと考えられる首都アンタナナリヴ近辺で、なおかつ、公共交通があまり発達していないアムルニ・マニア地域圏の山間部である。この地域では、砂金や木材の産出が多い。これら小規模生産の対象となる天然資源に関して聞きとり調査をおこなうことで、バイパス型私企業活動の影響を評価した。聞きとり調査においては、半構造化されたインタビューの方法を重視して資料を収集したほか、インタビュー場面以外での発話も記録するよう心がけた。

4. 研究成果

調査した村落では、フランス系の人道支援NGOから支援を受けて、伝統的景観の再現に

関わる大規模なプロジェクトが実施されていた。これは、この20年ほどのあいだに増加したレンガ製住居などをとり壊し、木造住居の新築資金を補助して奨励するというものである。期待される効果のひとつとしては、観光振興などがあげられるが、伝統的住居に用いる木材資源が枯渇するおそれもある。げんに、新築住居にはかならずしも適切な樹種が用いられておらず、適切な樹種である場合にも樹齢の若い(傷みやすい)材が用いられる傾向があり、伐採のスピードが速すぎて資源更新がうまくいっていない可能性が示唆された。

この現象は、僻地が急激にグローバル化していく状況において生じたものである。研究開始時にはすでに、資本が国家に先がけて村落生活に影響を及ぼすことが、じゅうぶん予想されていた。上記の結果は、そのことを明白に示すものといえる。

また、経済から文化の側面に目を転じてみるならば、文化の再定義に現地の人びとだけでなく内外のさまざまなアクターが関わっているといえる。これまで文化は、洗練された芸術作品という意味と、生活のあらゆる側面を規定する行動様式という2つの意味において論じられてきたが、アムルニ・マニア地域圏では、後者の文化が外部のアクターによって前者の文化的価値で捉えられるようになってきており、現地の人びともそれに対してさまざまな応答をおこなうようになっていくことも観察された。

そのほかに得られた結果としては、国家のガバナンスが低下したかわりに、企業やNGOと結びついた自治体政府が活動を活発化させているという知見がある。これは、研究開始時には想定されていなかったことである。国家の役割が低下したまま、地方分権化をはたした自治体政府がどのように海外のアクターと手を結んで活動していくかは、引き続き追跡すべき課題である。

また、住民行動や地域構造が受けた変化(恩恵や機能不全)は、事業の進めかたや財源によっても異なることがわかった。このようすを定量的に比較すれば興味深い知見が得られるはずだが、今回は予算規模が小さく個人研究に終始したため、じゅうぶんに資料を得ることができなかった。今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

IIDA, Taku 2015 Toward an Anthropology of Heritage Practices, *The Newsletter of International Institute for Asian Studies* 70: 46. (査読なし)

飯田卓 2014 「文化遺産の人類学」とはなにか」『民博通信』145: 8-9. (査読なし)

し)
飯田卓 2013「文化遺産を受け継ぐコミュニティのあたらしいかたち」『民博通信』141: 10-11. (査読なし)

〔学会発表〕(計 7 件)

飯田卓「担い手にとっての文化遺産の価値と、観光客にとっての文化遺産の価値 マダガスカル中央高地ザフィマニリの木彫り工芸と木造建築」2016年5月28日、日本文化人類学会第50回研究大会、南山大学、名古屋

IIDA, Taku Swinging between German Romanticism and French Enlightenment: Zafimaniry Cultural Heritage in Madagascar. *Inter-Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences*. May 5, 2016, Dubrovnik Palace Hotel, Dubrovnik, Croatia.

IIDA, Taku Regenerative Medicine of Culture: A Perspective Based on the Woodcrafting Knowledge of the Zafimaniry, Madagascar. *International Symposium "Authentic Change in the Transmission of Intangible Cultural Heritage."* March 12, 2016, National Museum of Ethnology, Suita, Japan.

飯田卓「暮らしに息づく文化遺産の国際的認知」琉球大学国際沖縄研究所ワークショップ「無形文化遺産の活用と継承」(招待講演)2015年3月4日、琉球大学、西原

IIDA, Taku Establishing Hotlines: A Japanese Museum's Experience of Exhibiting Madagascar Cultural Heritage. *113th Annual Meeting of American Anthropological Association*. December 5, 2014, Marriott Wardman Hotel, Washington, DC, USA.

IIDA, Taku Balancing the Material and the Intangible: House Construction and Craft Making among the Zafimaniry of Madagascar. *14th Conference of International Association of Commons Studies*. June 4, 2013, Onshirin kanri kumiai, Fujiyoshida, Japan.

IIDA, Taku From Decoration to the Ethnic Symbol: Zafimaniry Geometric Relief in Madagascar. *International Symposium "Can Cultural Heritage Forge Communities? Efforts in Africa."* May 28, 2013, National Museum of Ethnology, Suita, Japan.

IIDA, Taku From Decoration to the Ethnic Symbol: Zafimaniry Geometric Relief in Madagascar. *International Symposium "Can Cultural Heritage Forge Communities? Efforts in Africa."* May 28, 2013, National Museum of Ethnology, Suita, Japan.

〔図書〕(計 7 件)

飯田卓編 2017『文化遺産と生きる』臨川書店。

飯田卓編 2017『文明史のなかの文化遺

産』臨川書店。
藤木庸介編 2016『住まいがたえる世界のくらし 今日の居住文化誌』世界思想社(飯田卓「家屋の堅牢さと手軽さ マダガスカルのからし」101~114ページ)

飯田卓 2014『身をもって知る技法 マダガスカルのからし』臨川書店。

東賢太郎・市野澤潤平・木村周平・飯田卓編 2014『リスクの人類学 不確実な世界を生きる』世界思想社。

松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社(飯田卓「アフリカのなかのアジア マダガスカル」70~71ページ)

飯田卓・深澤秀夫・森山工編 2013『マダガスカルを知るための62章』明石書店。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等
<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/iida/index>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯田 卓 (IIDA, Taku)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授

研究者番号: 30332191

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()